

ImPACT プログラム・マネージャー採用候補の選定結果について

平成 26 年 6 月 12 日
革新的研究開発推進プログラム有識者会議

革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）有識者会議（座長：久間議員）は、「革新的研究開発推進プログラム運用基本方針」（平成 26 年 2 月 14 日総合科学技術会議）等に基づき、ImPACT のプログラム・マネージャー（PM）の公募と採用候補の選定を進めてきた。

今般、PM 採用候補として、有識者会議が適当と認める候補を選定したので、以下にその経緯とともに報告する。

1. PM の公募

PM 採用候補の選定に当たっては、優秀な人材を広く内外から求めるため、公募により募った。その際、ImPACT の制度のみならず、趣旨・考え方を広く周知した上で優れた提案を多数募るため、各種規定・公募要領・質問回答集等を作成し、ネット掲載した。また、産学官の関係団体への説明と会員等への周知依頼、全国 7 箇所での説明会開催等を行い、制度の周知とともに積極的な応募の働きかけを行った。さらに、英語版の規定類も準備し、外国人の応募も受け入れられる態勢を整えた。

応募書類は、概要書面と詳細書面の 2 種類の提出を求めることとし、それぞれ提出期限を別に設定することによって、可能な限り応募者の負担軽減と利便に資するよう配慮した。

公募は、3 月 7 日に開始し、3 月 31 日に概要書類締切、4 月 24 日に詳細書類を締切った。その結果、180 件の応募が寄せられた。内訳は、企業等の産業界 59 名（33%）、大学等の学術界 86 名（48%）、独法等の公的機関 20 名（11%）、個人研究者 10 名（6%）、各種団体等、医療法人（病院）、社団・財団等の公益法人等 4 名（2%）であった。

2. 国民からの意見の募集

ImPACT の制度・内容や、取り組みへの期待等を「ImPACT に期待す

ること」として、国民から広く意見募集を行った（期間：3月10日～4月9日）。募集結果（44件）は、取りまとめ、PM採用候補選定の際の参考とした。

3. PM採用候補の選定方法・選定体制

PM選定に当たって、適正かつ公正な選定を確保するため、利害関係者の排除、秘密の保持等の必要な措置を講じた。

PM採用候補の選定方法は、書類審査と面接審査により行った。

審査は、ImPACT有識者会議において行うこととしつつ、ImPACTの制度主旨に即したPM採用候補選定に資するため、外部有識者として全体俯瞰レビュアー（11名）、技術レビュアー（24名）の参画を求めた。

全体俯瞰レビュアーは、ImPACTの制度主旨を踏まえつつ、大所高所から全ての提案へ意見提出を行うことを主な役割とし、また、技術レビュアーは、特定の提案について、主に技術的な観点から意見提出を行うことを主な役割として依頼した。

書面審査においては、

- ・概要書面評価では、全体俯瞰レビュアーによって、提案内容がImPACTの制度主旨に合致しているかを評価、
- ・詳細書面評価では、全体俯瞰レビュアーが主にプログラム構想の充実度を、技術レビュアーが技術的妥当性を評価、した。

4. PM採用候補の選定経緯

（1）概要書面評価

180件の応募者について、全体俯瞰レビュアーは、全ての案件を評価した。

有識者会議は、全体俯瞰レビュアーによる、全案件評価の結果を参考に議論し、技術レビュアー等に詳細書面評価を依頼する案件として、127件を選定した。

（2）詳細書面評価

127件の応募提案について、技術レビュアーは詳細書面評価を行

った。有識者会議は、全体俯瞰レビュアー・技術レビュアーの評価・意見を踏まえ、次の考え方を基本に 31 件の面接対象案件を選定した。

- ・ ImPACT の趣旨に即しており、PM の資質も高く、技術評価も高い案件は面接対象。

- ・ ImPACT の趣旨に即しており、技術評価も高いが、PM の資質、特に PM としての業務量確保等に懸念がある場合は、面接で確認。

- ・ ImPACT の趣旨に即しており、PM の資質も高いが、技術評価に課題があると認められる提案は、その内容を踏まえ、面接対象とすべきか個別に判断。

(3) 面接評価

面接は、5月26日～28日の3日間、上記31名を面接した。面接は、有識者会議構成員及び全体俯瞰レビュアーにより、応募者本人の説明(10分)の後、質疑応答(15分)を行った。

面接後の有識者会議において、面接者31名の評価過程に入り、その際、有識者会議では、次の考え方に合意した。

① 面接評価を重視すべきであること

(研究開発プログラム構想は評価が高くとも、PMの資質に課題がある場合は、採択は見合わせる。応募書面は関係者の総合力で準備できるが、PMの力量を見極めることができるのは、面接時のみ)

② PM採用候補とする際の条件整理

(PMが提案する研究開発プログラム構想は、採択後の作り込み期間において内容充実を図ることは可能であるが、採択に当たって確認すべき点は、クリアにする必要がある)

5. 選定の協議と結果

有識者会議における議論の結果、31名中、必要な者に対して追加資料の提出を求め、その回答内容等を精査し、PM採用候補を選定した。

以上の結果、有識者会議は、別紙に示す12名をPM採用候補者として適当であると認める。

ただし、それぞれの PM 採用候補者が掲げる研究開発プログラム構想は、今後の作り込み期間において更に具体化するべき部分も数多く残されており、また、それが認められていること自体が ImPACT の制度的特徴の一つでもある。

他方、有識者会議としては、ImPACT の趣旨が十分理解される形で、その具体化が進み、早期に研究開発が開始され、所期の目標の達成に至るよう、制度の特徴を妨げない範囲で引き続き適切なフォローアップを行う必要があると考えている。

PM採用案候補者一覧

応募者名	所属	プログラム名称
伊藤 耕三 (いとう こうぞう)	東京大学	超薄膜化・強靱化「しなやかなタフポリマー」の実現
合田 圭介 (ごうだ けいすけ)	東京大学	セレンディピティの計画的創出による新価値創造
佐野 雄二 (さの ゆうじ)	株式会社東芝	ユビキタス・パワーレーザーによる安全・安心・長寿社会の実現
佐橋 政司 (さばし まさし)	東北大学	無充電で長期間使用できる究極のエコIT機器の実現
山海 嘉之 (さんかい よしゆき)	筑波大学	重介護ゼロ社会を実現する革新的サイバニックシステム
鈴木 隆領 (すずき たかね)	小島プレス 工業株式会社	超高機能構造タンパク質による素材産業革命
田所 諭 (たどころ さとし)	東北大学	タフ・ロボティクス・チャレンジ
藤田 玲子 (ふじた れいこ)	株式会社東芝	核変換による高レベル放射性廃棄物の大幅な低減・資源化
宮田 令子 (みやた れいこ)	名古屋大学	進化を超える極微量物質の超迅速多項目センシングシステム
八木 隆行 (やぎ たかゆき)	キヤノン 株式会社	イノベーティブな可視化技術による新成長産業の創出
山川 義徳 (やまかわ よしのり)	株式会社 NTTデータ 経営研究所	脳情報の可視化と制御による活力溢れる生活の実現
山本 喜久 (やまもと よしひさ)	国立情報学 研究所	量子人工脳を量子ネットワークでつなぐ高度知識社会基盤の実現